

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 （政策）	番号	2	名称	福祉と健康づくりで明るいまち			
施策	番号	6	名称	高齢者の生きがい対策の推進			
主担当部	福祉部		主担当課	地域包括支援課		部長名	間瀬 彰久
関係部	—		関係課	—			

2. 施策の基本方針（第3次総合計画の基本方針をもとに記入する）

この施策の目的	高齢者が、老人クラブ等の自主的で自立的な社会活動に参加しやすい環境づくりに努めるとともに、そうした成果を発展させることができる機会の充実に努める。高齢者がボランティア活動等の活動を通じて、社会参加が可能となる環境の醸成に努める。
---------	--

3. 施策の現状分析（第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する）

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について
	高齢化の進展や地域社会の成熟に伴い、豊富な知見を有する元気な高齢者が増加している。高齢者が有する豊かな知見や社会経験を、自主的で自立的な地域活動や文化活動につなげてゆける活動を醸成する。	県では、高齢者の生きがい対策活動を支援するための社会参加活動に関する啓発、社会活動振興のための支援、生きがいを持って活動できる環境づくりに取り組んでおり、市町村と協力している。
これまでの成果	老人クラブの地域活動への参加が、高齢者の社会参加につながっている。老人福祉センターの直営事業として実施していた生きがい教室については、28、29年度の調整期間の2か年を経て、自主活動へ移行した。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	28年度	29年度		30年度	備考欄	
		実績	目標	実績	目標		
指標の推移	施策指標① （成果指標）	老人クラブ加入団体数	56	60	54	49	
	施策指標② （成果指標）	高齢者大学校受講者数	229	270	211	191	
	施策指標③ （成果指標）						
	施策指標④ （成果指標）						
	施策指標⑤ （成果指標）						
コストの推移 （単位：千円）	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出 （直接事業費）(a)		15,314	18,675	16,160	18,265	
	歳入 (b)	受益者負担額	0	0	0	0	
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	1,290	1,123	1,150	1,150	
	(a) - (b) = 一般財源		14,024	17,552	15,010	17,115	
	正職員	従事者数 （単位：人）	2.85	1.90	1.90	1.90	
		人件費(c)	16,265	10,843	11,045	11,045	
トータルコスト (a) + (c)		31,579	29,518	27,205	29,310		

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	3	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	高齢者の生きがいづくりや文化活動の場の提供については、これまでの施策実施の蓄積が地域の中で継続されてきたことにより、啓発やきっかけづくりにおいて一定程度達成されたと捉えている。ニーズが多様化し、民間活力や自主的活動も多岐にわたっている。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	高齢者が生きがいを持って住み慣れた地域において、心身の健康を維持することは、高齢者福祉の増進にも寄与し得る。				

6. 施策の課題

この施策の課題	年々対象者が増加している敬老会については、今後事業内容の変更も含めて検討の余地がある。事業全体として、予算を投入する方法から啓発やきっかけづくりを取り入れた自主的で自発的な方向性へゆるやかに転換してゆく必要がある。
---------	---

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	2	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	高齢社会の進展により、事業対象者の増加が見込まれることから、本事業の見直しを今後検討する必要がある。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	高齢福祉事業（一人暮らし高齢者実態調査、外国人特別給付金、老人クラブ助成）については、制度や関係法令の改廃等の推移を見極めながら、現状を維持してゆく。老人生きがい対策事業（敬老会、金婚式、白寿米寿記念品）については、対象者のニーズや社会的要求度、近隣自治体の対応等も勘案しながら、今後の方向性を年度ごとに見直す。30年度に開講に至らなかった生きがい教室（老人生きがい対策事業）については、自主活動への移行や社会的要求度の度合い、民間活力等他の受け皿の存在などを勘案し、事業をいったん収束させる。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度一事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性一事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)ー施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価			戦 略	大 綱
No.	課名、事務事業名 及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及び H29決算額	貢 献 度	方 向 性	優 先 度 (ソフト任意)		
1	地域包括支援課	①一人暮らし高齢者実態調査…各地区の民生委員により65歳以上の一人暮らし高齢者の実態調査の実施。②外国人特別給付金…年金受給権のない外国人高齢者に対して申請に基づき、特別給付金を給付。③市老連・単位老人クラブ補助金交付…高齢者相互の親睦と理解、地域社会で高齢者が健康的に明るく活動するため運営費用の一部を補助。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	B		
	高齢福祉事業 (ソフト(任意))		6,116 (千円)					
2	地域包括支援課	①②市内在住の75歳以上の高齢者を対象に敬老会を、結婚50年を迎える夫婦を対象に金婚式を開催。③米寿や白寿の節目を迎える高齢者に祝品を贈呈。④市内在住の60歳以上の高齢者を対象に手芸・俳句・盆栽の3つの教養講座を開催。	2 現状のまま継続	c	見直しながらかつ続ける	C		
	老人生きがい対策事業 (ソフト(任意))		10,044 (千円)					

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年6月1日）

事業の種類を選択してください。⇒		（ ソフト（任意） ）		事業					
P L A N 計 画	事務事業名	高齢福祉事業							
	担当部名	福祉部	担当課名	地域包括支援課	課長名	森本 典子			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち					
		施策	6	高齢者の生きがい対策の推進					
	総合戦略の位置付け	基本目標							
		基本的方向							
	行革大綱の位置付け	重点項目							
		項目							
		改革名							
	予算事業名	高齢福祉事業							
事業の開始年度	平成	-	年度	事業の終了予定年度	平成	-	年度		
対象	①独居高齢者②年金受給権のない外国人高齢者③市老人クラブ連合会④生きがい活動団体			事業の内容説明	①一人暮らし高齢者実態調査…各地区の民生委員により65歳以上の一人暮らし高齢者の実態調査の実施。②外国人特別給付金…年金受給権のない外国人高齢者に対して申請に基づき、特別給付金を給付。③市老連・単位老人クラブ補助金交付…高齢者相互の親睦と理解、地域社会で高齢者が健康的に明るく活動するため運営費用の一部を補助。				
事業の目的	①②独居高齢者・年金受給権のない外国人高齢者の生活支援を行う。③④地域で暮らす高齢者が生きがいをもって暮らせ、明るく活気に満ちた地域社会実現のため各高齢者団体へ向けて助成を実施する。								
市 の 関 与 の 必 要 性 を 評 価 し て く だ さ い	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	2	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
	説明		2	市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）					
		やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い		
	説明		②外国人特別給付金受給対象者は、他の公的な年金制度がないため給付金が生活の支えになっている。③助成団体の運営や活動規模の縮小につながる。						
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		28年度	29年度		30年度	31年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	市老人クラブ加盟団体		56	60	54	49	49	
	活動指標①	老人クラブ加入者数		3,117	3,500	2,991	2,677	2,677	
	活動指標②								
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出（直接事業費）(a)			5,526	6,830	6,116	6,325	
		歳入(b)	受益者負担額						
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）		1,290	1,123	1,150	1,150	
		(a) - (b) = 一般財源			4,236	5,707	4,966	5,175	
正職員		従事者数（単位：人）		0.95	0.70	0.70	0.70		
		人件費(c)		5,422	3,995	4,069	4,069		
単位当たりコスト	トータルコスト (a) + (c)		10,948	10,825	10,185	10,394			
	計算式等 () / ()								
備考	②外国人特別給付金受給対象者は現在2名が対象。								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要
		説明	①独居高齢者を把握することにより地域での見守り活動に役立っている。②受給対象者である在日外国人の生活の支えになっている。③老人クラブ加盟数及び加入者数ともに減少傾向にあるが高齢者の老人クラブへの加入は高齢者が生きがいを見つける助けとなり地域社会への活力となっている。				
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
		説明	①独居高齢者を把握することにより地域での見守り活動に役立っている。②年金受給権のない在日外国人の生活の支えになっている。③活動している団体は、地域に根ざしているところが多く、地域と行政のパイプ役として機能している。				
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の削減が可能か評価してください		2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない
		説明	①独居高齢者を把握し、地域での見守り活動に役立てるため調査は必要であるが手法について改善は可能。②年金受給権のない在日外国人の生活の支えになっているため削減は難しい。③助成団体の運営や活動規模の縮小につながるため難しい。				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		①一人暮らし高齢者実態調査については、調査結果を地域の見守り活動以外の活用方法について情報の共有機関についても検討し、高齢者が安心して暮らせるよう体制づくりをおこなう。②外国人特別給付金については、現在対象者が2名であることから事業として改善することはない。				
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	①民生委員による聞き取りによる調査が困難な事象が増えてきたため調査対象者に事前に郵便で調査について通知するなどの工夫が必要。郵便で事前通知を行うとすると郵便料金を予算計上する必要がある。②受給対象者がいなくなるまでは継続。		

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年6月1日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト (任意)) 事業										
P L A N 計 画	事務事業名	老人生きがい対策事業								
	担当部名	福祉部	担当課名	地域包括支援課	課長名	森本 典子				
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち						
		施策	6	高齢者の生きがい対策の推進						
	総合戦略の位置付け	基本目標								
		基本的方向								
	行革大綱の位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	老人生きがい対策事業								
事業の開始年度	平成	-	年度	事業の終了予定年度	平成	-	年度			
対象	①市内在住75歳以上高齢者②結婚50年を迎える夫婦③米寿・白寿・100歳を迎える高齢者④60歳以上の高齢者			事業の内容説明	①②市内在住の75歳以上の高齢者を対象に敬老会を、結婚50年を迎える夫婦を対象に金婚式を開催。③米寿や白寿の節目を迎える高齢者に祝品を贈呈。④市内在住の60歳以上の高齢者を対象に手芸・俳句・盆栽の3つの教養講座を開催。					
事業の目的	①②③高齢者自らが住み慣れた地域社会の中で、健康で安心して生きがいをもって暮らすことができるよう高齢者の長寿を祝う行事や金婚式等の実施及び祝品の贈呈。④高齢者に文化活動へ参加する機会を提供することで活動の振興や高齢者同士の交流の促進を図り、生きがいのある生活を営むことができるよう支援する。									
市 の 関 与 の 必 要 性 を 評 価 し て く だ さ い	なぜ市が関与しているのか	2	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
	やめた場合の影響は	3	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
			説明 ①②③やめた当初は反響があると思われる。							
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	敬老会参加率			16	20	16	20	20	
	活動指標①	敬老会参加者			2,504	3,000	2,540	3,000	3,000	
	活動指標②									
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)			9,788	11,845	10,044	11,940		
		歳入(b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）							
		(a) - (b) = 一般財源			9,788	11,845	10,044	11,940		
正職員		従事者数（単位：人）			1.90	1.20	1.20	1.20		
		人件費(c)			10,843	6,848	6,976	6,976		
トータルコスト(a) + (c)			20,631	18,693	17,020	18,916				
単位当たりコスト	計算式等 () / ()									
備考	④生きがい教室（手芸・俳句・盆栽）の3講座については広報に掲載し募集を行ったが、申込者が過半数に満たないため、平成30年度は開講を見送った。									

CHECK 評価	有効性 評価	現時点での 成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	①②市の敬老行事として認知度は高い。							
	現時点での 有効性を評価してください	上位施策 への貢献 度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	①②敬老会は例年9月の行事として高齢者に認知されており参加を楽しみにされている方が多い。金婚式は毎年、年度当初から多数の方より問い合わせがある。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない				
		説明	①③敬老会の開催内容、祝品贈呈の年齢や品物選定等を再考することによりコスト削減を図ることは可能だが、高齢者が増加する中、同一単価でイベント開催や祝品の購入となると経費削減は難しい。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		①高齢者が増加する一方であり、この状態が続けば敬老会の開催場所の定員により参加者が入りきらず、消防法にも抵触する恐れがある。2日間に分けて開催する等の案があるが予算は拡大する一方である。敬老会を継続するなら、開催時間等を変更し半日開催や送迎のあり方について検討が必要。開催規模や場所の変更により参加者が減少し経費は削減される。							
	修正 行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内 優先度		C	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	①②③敬老関係事業の大幅な縮小や、完全に消失することは難しいが、事業内容・開催内容の改善は可能である。開講を見送った④の生きがい教室については、次年度以降の方向性を検討してゆく必要がある。					